

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 月島第三小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国 語	【4月】 ●「令和6年度学習力サポートテスト」において、「文章を書く」設問において参加校より第6学年が7.4ポイント下回っている。「話し合いの内容を聞き取る」設問において第5・6学年が参加校より下回っている。 ・内容の中心を明確にし、自分の考えやその理由などを書くことが苦手な児童が多い。 ・大事なことを落とさず聞くことを苦手とする児童が多い。 【10月】
算 数	【4月】 ●「令和6年度学習力サポートテスト」において、4～6年生は、「数と計算」、「図形」領域では、概ね理解できている（7～8割程度）。5年生の「変化と活用」領域では6割程度、5、6年生の「データの活用」領域では、6割程度の正答率に留まり、理解の定着が図れていない。 ・どの学年においても、データの活用が苦手な児童が多い。 ・5年生では、「変わり方調べ」、6年生では、「割合」の単元の学習が定着していない。 【10月】
社 会	【4月】 ●「令和6年度学習力サポートテスト」における「都道府県の様子」「特色ある地域の様子」の単元において、参加校平均正答率を第5学年で1.8ポイント下回っている。また、「国土の自然などの様子」の単元において、参加校平均正答率を第6学年で6.9ポイント下回っている。 ・地理的な知識を習得することに対する意欲や習得の個人差が大きい。 ・情報と情報を関連付けて文章等で表現するのが苦手な児童が多い。 【10月】
理 科	【4月】 ●「令和6年度学習力サポートテスト」においては、次のことに課題があることが分かった。4年生では、磁石の性質についての理解が定着していない。5年生では、水の姿についての理解が定着していない。6年生では、天気の変化についての理解が定着していない。 ・学習してしばらく経った内容の定着率に課題がある。 ・考察などで自分の考えを表現するのが苦手な児童が多い。 【10月】

英 語	【４月】 ●「令和６年度学習力サポートテスト」において、「アルファベットを読み（聞く）」と「英文の完成」の問題において正答率の低さが目立った。この結果から、アルファベットや英文を正確に読むことに課題があると考えられる。 ・アルファベットの文字や英文を正確に読む能力が全体的に低い。 ・似た形のアルファベットの文字を書き間違えるなど書く能力における個人差が大きい。 【１０月】
体力向上	【４月】 ・全身持久力、投力の面での改善が必要である。器具や用具を使う運動というよりも自分の体をうまく動かしたり操作したりという面に課題がある。 【１０月】

２ 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

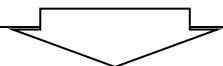
	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【４月】 ・聞く態度を重視し、大事なことを落とさずに聞く姿勢を身に付けさせる。 ・自分の考えを書く機会を設定する。 ・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) 【１０月】	・月三小スタンダード【授業】の聞き方を徹底する。 ・教師や友達の発表を聞くだけでなく、内容を要約したり思考ツールに整理したりする活動を重視する。 ・他教科で学んだ内容を説明文にして書く活動を行ったり、ＩＣＴを活用し、文章を推敲する経験を積ませたりする。
算 数	【４月】 ・データの活用の学習では、統計的探求プロセスである「問題—計画—データ分析—結論（PPDA サイクル）を意識して取り組むようにする。 ・「割合」の学習では、簡単な例を出しながら、算数用語を確実に理解した上で、問題に取り組むようにする。 ・「変化と関係」「データの活用」の領域で、正答率７割以上を目指す。 ・学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) 【１０月】	・身の回りの中でデータが必要な問題場面と目的を見つけられるように促し、意欲的に取り組めるようにする。 ・算数用語を抑えた上で、どのような場面に必要なものなのかを指導する。
社 会	【４月】 ・地理的な知識を多くの児童が意欲的に習得できるように、地理的な知識を授業中に工夫して扱う。 ・日頃の授業や単元のまとめなどで、情報と情報を関連付けて考えるような展開を、計画的に入れる。 ・「地域の特色」「国土や地形」などの単元において、「令和６年度学習力サポートテスト」の第５学年・第６学年で、参加校平均正答率を上回るようにする。	・中央区の地図や地図帳、地図記号クイズなど、児童が地理的な内容に触れられるように授業計画を立てる。 ・単元の中で重要な言葉などを事前に教師が理解しておき、提示してまとめに入れさせる。さらに、まとめの授業の際にこれまでの情報を関連させるような発問をする。

	【10月】	
理科	【4月】 - 定期的に練習プリントを解くなど、以前に学習した内容を確認に習得することを図る。 - 考察の書き方の指導を改善し、日頃の授業で実践する。 - 学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) 【10月】	- 授業で学んだ内容を復習できるプリントを用意し、定期的に復習する機会を設ける。 - 考察の書き方の型を示したり、よく書けている児童のノートを紹介したりして、具体的に考察の書き方が分かるように指導する。
英語	【4月】 - アルファベットの読みの練習、フォニックスの学習、教科書の英文を読む練習の機会を増やす。 - アルファベットの書く練習を充実させる。フォニックスの学習を通して、文字の音と形をリンクさせて覚えられるように継続する。 - 学習力サポートテストの正答率が都平均以上を目指す。(約80%) 【10月】	「A says /æ/, /æ/, apple. B says /b/, /b/, ball.」のように、文字の名前、音、その音で始まる単語をセットで提示する。 - 大文字・小文字それぞれについて、正しい書き順を丁寧に指導します。視覚的な教材（書き順がアニメーションで表示されるものなど）を活用する。
体力向上	【4月】 - 体力テストの期間を利用して、体力向上に努める。 - 縄跳びを活用しながら、体を動かすことの楽しさを実感させる。 - 体力テストについて、どの種目も都平均以上を目指す。また、投力を重点的に指導し、都平均以上約80%達成を目指す。 【10月】	- ICT教材を活用し、模範動画を確認しながら取り組み方について確認する。 - 縄跳びカードを活用して、目標を設定しながら意欲的に取り組むことができるようにする。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した授業作りを、学習用タブレットを活用しながら実践する。個別のめあてや課題解決に向けての選択肢を用意し、場の設定を工夫し、効果的な交流を行う。また、児童の学習定着状況を把握し、習熟度に合わせた課題を出すなど、個別最適な学びを展開する。

探究的な学びの充実	
取組	探究的な活動を展開できる単元を構成し、主体的な児童を育成するため、基礎力・思考力・実践力を身に付けさせる。具体的には、生活科、総合的な学習の時間を軸に、各教科領域と横断的なカリキュラムを作成し、充実した授業作りを目指す。特に今年度は、90周年行事とも絡めて、地域や学校に愛着がもてるテーマで、生活科や総合的な学習の時間を中心に各学年児童の興味、関心を基に、授業を開発していく。

読解力の育成	
取組	文章を読み、具体的にどの文章から読み取れるのか、根拠を基に自分の考えを書いたり、発言したりするようにする。読書の時間を確保し、様々な分野の文章に触れたり、徐々に長い文章にも慣れたりできるようにする。



3 取組結果の検証

	令和7年度の取組の成果	令和7年度の取組の課題と解決策
国 語		
算 数		
社 会		
理 科		
英 語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	